文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間　会報 No.99　2024 年 6 月 30 日発行
川崎市幸区古市場 2-109　京浜協同劇団内　TEL 044-511-4951　郵便振替 00250-3-18369
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

市民劇 好評のうちに終了しました

第 9 回を迎えた川崎郷土・市民劇は、川崎市制 100 周年を記念し「百年への贈り物」と題して、2024 年 5 月 11 日・12 日多摩市民館で 2 ステージ、5 月 18 日・19 日幸市民館で 3 ステージ行われました。

出演した方、観劇した方から感想をいただきました。

「太田三郎」役と取り組んで

村田　好行

市民劇に参加したのは今回が 3 回目。前回は 7 年前の『南武線誕生物語』でした。実はその時も今回と同じ太田三郎という役名だったのです。前回は砂利採掘現場で働くオカマの役だったのですが、今回はガラッと変わって町議、後の川崎町町長の役でした。

主役の石井泰助の対抗軸となるような役で、石井が将来の町創りの夢を実現したのに対し、実務派の太田は時には石井の夢に反対し現実路線を行こうとするといった、石井とは相反するタイプの政治家として描かれていました。

役者というのは自分の役を掘り下げ、その役に自分を近付けていく作業をします。この太田というのは、ギラギラとした野望をたぎらせて真っ向から石井と市長を争うようなタイプなのか、あるいは男としての野心は内面に抱きつつも石井をリスペクトし石井が市長選に出るなら自分は身を引いて自分の役割を果たそうとするタイプなのかで役創りも大きく変わってくるため、どちらにするかで少し悩みましたが、私は後者を選びました。

生のお芝居の面白さは、舞台上で創られる世界に観客を曳き込み、舞台上の役者と観客が一緒になって泣いたり笑ったりドキドキしたりできることだと思っています。そのためには、まずは自分自身がその世界の役に没入していかなければと思っています。心掛けているのは相手役とのセリフのやり取りや動きを感じて自分の動きを取ってみること。なるべく自然に、リアルになるように。もっとも自分の拙い演技力でどこまで表現出来たかは全く自信がありませんが、観ていたお客様に何か少しでも感じて頂けたようであれば、もうそれだけで役者として幸せに思います。

太田三郎のモデルとなった、実際の川崎町最後の町長は小林五助という方でした。耕地整理組合の発足や上水道敷設を行い、関東大震災の時には自らの養母が亡くなっているにもかかわらず、臨時町会を招集し、復興の陣頭指揮を執ったとのこと。川崎町、大師町、

写真撮影©長坂クニヒロ（以下同）

御幸村が合併して川崎市になった時に、この３町村の最後の町村長からの選挙で川崎市長を選ぶという命令が内務省から出て、川崎町ではこの小林が全会一致で候補となる予定だったのです。ところが本会議直前に石井側が異議を唱えたらしく、混乱の末の協議で小林が降り、石井が立候補することになった、というのが初代市長誕生の経緯のようです。その後、小林は助役への就任を要請されたが固辞したとのこと。小林もまた市長になって実現したい政策などもあったのでしょうね。何となくその気持ちはわかるような気がします。

今回の市民劇の公演本番には文化の仲間の皆さんや、私が関わっている演劇鑑賞会からも多くの方が受付や場内整理へ対応下さいました。皆さんのお支えを頂いているからこそ、こうやって舞台に立たせて頂ける。それが何よりも幸せなことだなと感じております。本当に有難うございました。

川崎という場所

三浦　さくら

この「百年への贈り物」というお話は自分の住む場所を好きになれるお話だと思いました。私がこの劇を見に行ったきかっけは友達が出ているからという理由

でした。最初は川崎市の誕生について少し学んだことがある程度でほぼ何も知らない私でした。川崎市の誕生から100年という節目の年だと知り驚いたのを覚えています。

開場して、お客さんを見ていると、川崎に住む人、そうでない人、大人から子どもまでこんなに多くの人が見に来ていることに気が付きました。市民劇でありながらここまで多くの人が見に来ていることに驚きながらも、幕が上がる瞬間を楽しみにしていました。いざ幕が上がるとセリフだけでなく、音、光、セット、映像、全てで観客を魅了する舞台で、驚きました。市民劇だからこその暖かさがあり、伝わってくるものが心地よく感じました。そして物語が進むに連れて知れる川崎市の過去。色々な人たちの思いが繋がって作り上げられる水道。誰かの為に懸命に働く人。沢山の人が関わって作られた市のお話を市民が作り上げるから

こそ、こんな風に暖かいところになっているのだなと感じました。お話を通して知ることができた知識と暖かさはこれからもつないでいってほしいと思いました。

そしてこの市民劇では、人同士の繋がりを深く感じた場所でもありました。それは舞台終わりのお見送りで、沢山の人がキャストの皆さんに声をかけ感想を伝え合っていたことから感じました。私の経験したことのあるお見送りとはまた違った感覚でした。写真などをとるだけのお見送りではなくお互いの感想を伝え合える場所、そしてその関係性。深くて安心感がある関係性が人々を通して伝わってくる場所はなかなかなくて、大切にするべき場所だと感じました。

人同士の関係性や、暖かさを感じることができる。そして住んでいる場所が好きになれる。こんな素敵な場所が川崎にあることをもっと多くの人に知ってもらいたいと深く思いました。（川崎市中原区在住）

出演して本当によかった市民劇

川島　雅博

無我夢中で頑張りました。市民劇「百年への贈り物」に出演して、「やって良かった！」というのが実感です。

「チョイ役だから出てみない？　市制100周年だし記念に残るから」と誘われてその気になったものの、稽古は大変でした。私の役は、土建屋の子分で山田という役です。稽古の合間に「特訓」をしていただいた時に、舞台に立ったら「川島は忘れて子分役の山田になりなさい。どういう子分の山田役になれるか」と言われました。

稽古に入ってからは、セリフを覚えてからが苦労しました。立ち稽古では出演者の大きな声、上手な演技に見惚れて、自分のセリフなのに？「次、山田だよ」と言われて、あっ、自分の番だと気づくことが何度かありました。セリフを覚えるのは、前後の相手のセリフも覚えていないといけないのです。そのうち、この場面では、どういう調子で言ったらよいのか、声の強弱はどうしたらよいのかなど、自分なりに考えられるようになりました。

そうは言っても、自分の演技がどう見られているのかなどと考える余裕などなく、ただただ、稽古を一所懸命やるばかりでした。セリフを間違えないようにと、セリフの出番を間違えないようにと緊張して本番を迎えました。お蔭さまで、公演を無事終えることが出来ました。少しは、子分の山田役になりきれたのか、観に来ていただいた方にどう感じていただいたのか知りたいです。

公演を終えて感じたことは、ひとつの芝居を作るのにこんなにも大勢の人が関わっているのかということでした。、演出家、音響、照明、舞台づくり、パンフ

レット作成、券の販売、受付などなど、たくさんの人たちの協力があって出来上がっていることを知りました。舞台の裏では暗い中で私を含め演技者たちが懸命に装置や小道具を転換しているのです。そのことを話すと「だから、芝居は総合芸術と言われているのだよ」と教えてもらいました。一人一人がそれぞれの役割をやって、ひとつの芝居を創っていく、そういう場に一緒に参加させていただいたことは幸せでした。芝居を通して、「各自の個性を生かして自分の持ち場で一所懸命にやりなさい」と教えられたような気がします。

よい経験、貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。（文化の仲間・世話人）

「百年への贈り物」から学んだこと

中村　隆男

5月の11、12、18、19の4日間（18日はダブルステージ）の5公演で開催された「川崎市郷土市民劇」の裏方要員として末席をけがしてきました。

今回の公演は川崎市制誕生百年ということで、川崎町、御幸村、大師町3町村の合併により誕生した経緯を、多摩川の洪水、氾濫による疫病の蔓延、町民の生

活打撃回復を水道事業の展開によって成し遂げた物語です。

日々の市民生活を安心して送れるように、財源確保も企業誘致や起債に求める極めて現代的な手法が、すでに川崎では取り入れられていたことは新たな発見でした。

私は川崎市民として七十余年、市民としてこの街を振り返った時、崇高な志を一つに立ち上がった意思を引き継いできただろうかとも思いました。

劇中でも示されていた、市民と企業との摩擦や、それを超えてのトラブルがじわじわと広がり、ましてや健康被害まで引き起こし命まで奪われた市民は、水道事業でともに歩んだ企業群との対峙を余儀なくされてしまいました。

そののち「市民生活最優先」「青い空と白い雲を取り戻そう」と、公害問題をメインテーマに川崎市長選挙が行われ、市民派と企業派の決戦は市民派大勝利の結果を得ることが出来ました。

公害反対の市民運動に直接参加していた私は、実相に触れる機会が多々あり、筆舌には尽くしがたい、正に毎日が綱渡り状態の患者被害者と共に歩くことになりました。

その後の市政は変節した勢力との節目ごとの闘いが展開され今日を迎えています。

「贈り物」では、民衆と広く手をつなぎ時々の課題を明確にした運動は、必ず大きく前進する。と、示唆してくれたように思っています。

この公演に尽力された各位にお礼します。

特に、御年 94 歳で活躍されている作者の小川信夫先生には一層の健勝をお願いいたします。

＝疫病と「縛られの松」＝

本題「贈り物」では、疫病が赤痢としていますが、川崎には民話の世界で、ずっと前に「流行り病」の百日咳が蔓延して人々の交流がご法度となってしまったものの、武蔵の国の賑わいが羨ましく見える相模の高台から、どうしても出かけてみたい「松の木」は、疾風の如く夜な夜な出かけて朝帰りを繰り返し、疫病を拡散した罰を受け、身動きを抑えるために当地（川崎

市宮前区神木）に縛られている。との逸話も聞いたことがあります。

いつの時期も人間の生活圏では、疫病との戦いを繰り返し、次世代に継承されての繰り返しが今日であることも実感したひと時でもありました。

私説・京浜協同劇団の歩み　　第３回 ――― 京浜協同劇団の 65 年

上演した 160 本の作品

城谷　護

劇団は労働者の街、川崎で 1959 年（昭和 34 年）12 月に生まれました。安保闘争のさなかでした。今年 65 周年目を迎えます。

合言葉は、劇団初代代表の黒沢参吉（劇作家）が提唱した「この日、この地で、この人々と」でした。この合言葉は今でも生きていて、上演作品を選ぶときも、困難にぶつかり目標を失いがちになるときも、いつも指針として私たちを奮い立たせてくれます。

私はこの劇団の創立時に第１期研究生として 19 歳で入団しました。私は造船労働者でしたが、劇団員は、鉄鋼・電機・食品会社の労働者、公務員、教師、看護婦など多様でした。みんな働きながら演劇活動を続けたのです。したがって、労働者の問題を採りあげたものが多かったのですが、それだけにとどまらず、戦争、平和、人権、地域の問題も、それから児童劇もよく採り上げました。

テーマ別に見てみると

労働者の問題を扱った作品には、「三池の斗い」、「歌え！わかもの」、「巣ばなれ」、「コンベア野郎に夜はない」、「九〇二番船、進水！」、「牙白く」、「鉄道員（ぽっぽや）」などがあります。

戦争・平和問題を扱った作品には「河」、「傷だらけの天使」、「メコンデルタ」、「ゼロの記録」、「ふかい疵」、「闇に咲く花」、「収容所（ラーゲリ）から来た遺書」、「黒と白のピエタ」、「人のあかし」などで、かなりの数になります。

金冠のイエス（1976、77、80 年）

地域の問題を扱った作品には、「真土村一揆」、「歌声が北の空に」、「金魚修羅記」、「郡上の立百姓」、「いのちの砦」、「ミスター・チムニー！天空百三十尺の男」、「多摩川に虹をかけた男＊」、「南武線物語＊」、「日本民家園物語＊」などがあります。（＊印は劇団単独ではなく川崎郷土・市民劇）

古典ものでは「どん底」、「真夏の夜の夢」、「カルラールのかみさんの銃」「コーカサスの白墨の輪」、「貧の意地」、「息子」、「鼬（いたち）」、「獅子」などがあります。

人権問題では「うたよみざる」、「おりん（姥捨て異聞）」などを上演しました。

娯楽物も採りあげました。狂言を劇化した「なろうことかな」、「お告げの妻」、「濯ぎ川」など。「病気」、「結婚の申込」なども好評でした。

児童劇では、「夕鶴」、「三年寝太郎」、「アリババと 40 人の盗賊」、「はだかの王さま」、「さんねん峠」、「きばのないおおかみ」、「龍の子太郎」、「ブンナよ、木からおりてこい」、「モモ」など、主にかわさき演劇まつりで上演したものが 40 本もあり、親子で楽しんでもらいました。

特に話題となった作品

特に話題となった作品には、金芝河作、小田健也演出、安達元彦音楽の「金冠のイエス（ソウル三文オペラ）」があります。金大中事件と重なって、大変な反響を呼び、再演、再々演となり、地元川崎だけでなく横浜、東京など通算 9 か所で上演、約 8 千人もの観客を集めました。

また、全リ演（全日本リアリズム演劇会議）関東ブ

麦の穂のように（1990 年）

ロックの 10 劇団が合同で上演した「西風に起つ（にしにたつ）」（亀井淳作、早川昭二演出）は、三宅島の NLP 基地化反対闘争を描いたものでしたが、川崎、東京、埼玉、そして現地の三宅島でも上演、合計 7,600 人の人に見ていただくことができました。この公演では私が制作を担当したのをはじめ劇団は総出演で取り組みました。

中沢啓治の「はだしのゲン」を劇化した「麦の穂のように」では、市民や子どもたちが大勢出演してくれ、スタッフを含めると 264 名もの人たちで舞台を創りました。川崎、横浜、茅ヶ崎などで上演、すべて満席という状況で観客は 8 千人を超えました。

劇団はこのように、本公演（自主公演）97 本、小公演約 15 本を上演してきました。それだけでなく、かわさき演劇まつり（52 年間）で 40 本、川崎郷土・市民劇（18 年間）で 9 本の舞台に関わってきました。合計すると 65 年間で約 160 本もの舞台を産み出したのです。

初代代表黒沢参吉

太鼓や腹話術も

劇団は、芝居だけでなく太鼓の上演もしており、「うすずみ太鼓」、「八丈太鼓ばやし」、「権兵衛太鼓」、「世附（よづく）の獅子舞」などは 20 年以上も上演しました。フランス（1991 年）、ロシア（1996 年）、韓国（2005 年）の海外公演でもそれは好評でした。

特にフランス公演には劇団員 28 名、外部スタッフ・支援者 8 名、総勢 36 名が参加、4 都市 9 回の上演、11 日間の大旅行でした。ある都市では「日本は鬼の国かと思っていたが、こんなに優しい芸があったんだ」と副市長が公式のあいさつの中で言ったほどで、草の根交流の役割を果たしました。

韓国では、「日本の良心がやってきた」と新聞記者に言われました。

私も腹話術で浅草の演芸場でのレギュラー出演をする傍ら全国を回り上演してきました。海外ではロシア、韓国、アメリカ等で上演。被災地への激励公演 400 回を含め上演回数は 4,830 回を超え、腹話術上演回数「日本一」を独走しています。

稽古場があったからこそ

劇団の誇りは、なんといっても自前の稽古場を持っていることです。

創立時の 10 年間は、幼稚園、学校、倉庫などあちこちの稽古場を 12 か所も転々としました。これでは落ち着いた活動ができないと、現在の川崎市幸区古市場という住宅街に 70 坪の土地を求め、木造 2 階建ての稽古場を建てました（土地・建物で 2,700 万円）。1970 年のことです。母親劇団員も稽古に専念できるようにと、稽古のある日は劇団保育室で専門の保母さんに見てもらうようにしました。

その建物も 20 数年も経つと傷んできます。創立から 35 周年の 1994 年に第 2 次の稽古場を建てること

にしました。今度は鉄筋コンクリート３階建てです。１階は小稽古場兼工房（23 坪）と事務所、厨房。２階は大稽古場（43 坪）兼小劇場（120 人収容）、３階は劇団員３世帯の居室です。経費は１億 6,500 万円でしたが、観客からのカンパ 4,500 万円を力に、劇団員 30 人で 6,000 万円を出し合い、不足の 6,000 万円は銀行融資でした。ローンの返済は毎月 20 万円、これまで 30 年間払い続けましたが、まだ約 1,200 万円が残っています。その返済は現在 12 名（実働）に減った劇団員の肩に重くのしかかっています。

しかし、稽古場の建設は画期的なことでした。私たちはこの稽古場から約 120 本に及ぶ作品を生み出してきたのです。そして、私たちの劇団が市民に呼び掛けて一緒になって創る企画を成功させてきたのです。毎回千数百人の観客を集める「かわさき演劇まつり」、そして毎回３千数百人の観客を集める「川崎郷土・市民劇」もこの稽古場なくしてはできないのです。このように、この稽古場は劇団の稽古場ということにとどまらず、市民の文化活動のセンター的役割を果しています。これは「文化の仲間」の人たちが勧めてきたことでもあります。

でも今、劇団はピンチ

一方、劇団は今、多くの困難を抱えています。まさにピンチです。ひと頃、実働で 30 数人いた劇団員も３分の１に減り、高齢化が進み、まさにシニア劇団になりました。藤井康雄劇団代表も病気で劇団に来られなくなっています。この１年で病気で退団した団員も２人、仕事が忙しく劇団に来られなくなった団員も２人。実働劇団員は 12 人になってしまいました。中でも痛手なのは、座付き作者で、劇団運営の面でも抜群の活躍をしてくれていた和田庸子が一昨年に急逝したことです。しかも、川崎郷土・市民劇で「おーい！煙突男よ」という自作の劇を大成功させた直後だったのです。本当に悔しく残念でなりません。

演劇まつりや市民劇では公募すると 30 人、40 人もの人が集まってくれるのですが、劇団にはなかなか入ってくれないのです。確かに劇団に入るのはハードルが高いのでしょう。劇団員になれば団費を納めなければなりませんし、会議も、作業も外部との付き合いもあります。そんなこんなで、ある程度拘束されるのはやむを得ないのです。

でも劇団がなければ、地域の責任を持つ演劇を創り続けることはできません。川崎でもいくつもの劇団ができては消えたりしました。そんな中で京浜協同劇団は「この日、この地で、この人々と」を合言葉に 65 年間頑張ってきたのです。

２千数百人を集めていた自主公演の観客も今は数百人になりました。特にこの４年間はコロナ禍の中で、稽古も公演も思うようには行かなかったのです。お客さんのカンパによって支えられました。

初代劇団代表の黒沢参吉夫人のシツエさんは今年１月、101 歳で他界されましたが、劇団に「困難を糧に」という書を残してくださいました。頑張るしかありません。私たちには、私たちを支え、地域で頑張っている人たち、観客がいます。その人たちのご恩に応えなければならないのです。

「この日、この地で、この人々と」の精神で、何とか若い人たちを取り込める劇団にしていきたいと思うのです。（前劇団代表）

フランス公演（1991 年）

劇団員による劇団員紹介　第 17 回――瀬谷やほこさんによる篠﨑旗江さん紹介

新しい風吹かせて、篠﨑旗江さん

京浜協同劇団　**瀬谷　やほこ**

篠﨑さんの入団は 2021 年 8 月。京浜協同劇団 3 年の新人です。

最初に入団者がいると聞いた時、なぜ入ったんだろうと不思議でした。旗江さんと初めて会った時「入ってくれてありがとう」と心からそう思い、言いました。その時、旗江さんはキョトンとして、何でお礼を言われるのか分からないと戸惑っている風でした。

●以下、旗江さんに聞きました。

劇団に入ったきっかけは何ですか？

亡くなった和田さんが、2021 年 11 月公演の『高瀬舟』、『濯ぎ川』のチラシを配っていたのんです。『濯ぎ川』の作者は飯沢匡。和田さんに「稽古見に来る？」と誘われて稽古初日を見に行ったんです。そしたら「出演したいでしょ。なら劇団員に入ったら」と言われました。私は考える間もなく団員になることをオーケーしました。

飯沢匡さんの作品に興味があったのですか？

飯沢さんは、私の父、土方重巳とコンビを組んで何人かと一緒に会社を作っていました。薬屋さんの店の前によく飾ってあるぞうさんの人形「サトちゃん」は父の作品です。父はコマーシャルやポスターのデザインなどをやっていました。それで、私は小さい頃、飯沢さんのお子さんと遊んだりしていました。そんなことからも飯沢作品に出演したいと思ったんです。

（瀬谷）私は、『濯ぎ川』に出演する旗江さんの稽古を見た時、「あっ違う風が吹いているな」と感じました。劇団にはその集団の空気が流れます、それは良いことですが、それが続くと慣れて新鮮さがなくなることもあります。私は旗江さんに期待しました。旗江さんは期待に応えてくれました。

その次の公演は朗読劇『米屋はまだ無事か』。朗読は前からやっていたのですか？

民藝の渾大防（こんだいぼう）一枝さんの指導でやっていました。初めての稽古の時に「声が小さくて何を言っているのか分からない」と言われました。人前で話すなんて苦手でしたが頑張りました。今も続けています。

そして 2023 年、第 97 回公演『獅子』の「お紋」役でしたね。

お客様に「よくあんな長い台詞覚えられたね」と褒められました。でも、大変でした。苦労しました。

いろんな集団の劇に出演していますが、「楽しんでやってください」と言われたことが腑に落ちています。私は役作りが好きで、そのことが楽しいのです。これからも楽しんでやっていこうと思っています。

本の紹介

日吉台地下壕――大学と戦争

阿久澤 武史 ほか著　　高文研 刊　1,900 円＋税

川崎のすぐ隣、横浜市港北区日吉にある慶応大学日吉キャンパスの地下に、旧海軍の連合艦隊司令部あとの地下壕があることをご存じですか。

歴史を掘り起こし、保存と普及のための取り組みを紹介しています。

和田庸子追悼公演　「黒と白のピエタ――種子を粉にひいてはならない」

上演にご支援をお願いします

京浜協同劇団　**柳沢　芳信**

和田庸子さんが、群馬県館林市に育ち、桐朋学園を経て京浜協同劇団に入団したのは 1976 年。そこから 30 年、2006 年、「ミスターチムニー・天空 130 尺の男」で作家デビューした和田さんは、2010 年「黒と白のピエタ・種子を粉にひいてはならない」、2012 年「人のあかし」と、精力的な作家活動を展開、2022 年には、川崎市民劇で「おーい煙突男よ」を上演、好評の内に幕を閉じて 2 週間足らず、次の作品への期待が高まる中、突然の病で急逝しました。

「この日、この地で、この人々と」をスローガンに掲げる劇団にとっては、創造の柱となる希望の星でした。その稀有な才能を失ったことは劇団にとって大きな痛手です。劇団は、この京浜工業地帯で、働く者の演劇集団として産声を上げてから間もなく 65 年となり、公演回数も 100 回が目前です。次の作品選びに苦慮している中、和田さんの娘さんのけゑてさんから、ぜひ「黒と白のピエタ」を上演してほしいという提案がありました。和田さんは、自分の娘に「けゑて」と名付けるほど、ドイツの画家ケーテ・コルヴィッツに傾倒し、彼女の生涯を戯曲にすることに情熱を傾けました。

思いはわかるが、今の劇団の力量、布陣で上演できるのか、集客力も衰えていて、財政的に成り立つのかと不安が大きく、時間をかけて検討してきました。まずは財政的保障のため、文化庁の助成金を申請しました。演出、キャスト、スタッフなども可能性を探りました。残念ながら、助成金の獲得はなりませんでしたが、スタッフ体制は整う中、けゑてさんを中心とした、初演での出演者たちが中心となり、助成金がだめならクラウドファンディングに挑戦しようという機運が高まり、劇団としての上演を決定しました。

和田さんがこの本を書いた時期、1990 年湾岸戦争に始まり、2001 年 9.11 同時多発テロ、そしてアフガン戦争。21 世紀になっても絶えることのない戦争への憤りがこの作品を書き上げる原動力だったのではないでしょうか。そして 2022 年、ロシアの侵攻により始まったウクライナ戦争、さらにイスラエルによるガザへのジェノサイド。アジアに目を向ければ、ミャンマーで続く内戦とロヒンギャへのジェノサイド。そして、「自由で開かれたインド太平洋」の名のもとに米中戦争へと引きずり込もうというきな臭い動き。今こそこの作品を上映すべき時という思いが募ります。

主演は、初演で好評を得た、民芸の若杉民さん、演出は東京芸術座の杉本孝司さんです。脚本は、和田さんの作った世界に磨きをかけるべく、杉本さんとけゑてさんで改稿を進めています。すでに 9 割がたまとまり、ケーテの少女時代が加わり、青春時代の描写が整理されて、すっきりとわかりやすくスピード感ある構成になってきました。

どうしてもお金がかかります。クラウドファンディング、直接支援併せて 100 万円を目標に取り組んでいます。コロナ禍でのご支援をいただいたばかりで本当に心ぐるしいのですが、重ね重ねのお願い、ご理解いただき、是非ともご協力をお願いします。

CAMPFIRE

CF エントリー先

和田庸子追悼公演

黒と白のピエタ

――種子を粉にひいてはならない

作　和田庸子　　**演出**　杉本孝司（東京芸術座）

日程　11 月 29 日（金）～ 12 月 1 日（日）

　　12 月 7 日（土）～ 12 月 8 日（日）

主　催　京浜協同劇団

◎文化の仲間通信◎

◆第 42 回　みんなでつくった平和公園
みんなでつくろうコンサート 2024

日程　2024 年 7 月 14 日（日）17:00 ～ 20:00
会場　中原平和公園野外音楽堂
参加団体　ねぎぼうず／合唱団きずな／新婦人高津コーラス（ららら）／ちゅらリンク（沖縄民謡＆ポップス）／川崎保育のうたごえサークル紫陽花／吉川敏男／アコーディオン合同／国鉄横浜うたう会／法政大学第二中・高等学校合唱部／サックス・モード／まぁ～どれ・さいわい／神奈川合唱団／川崎太鼓仲間 響／ 2024 新星／合唱団いちばん星
入場無料（賛同金 800 円）
中原平和公園が生まれて 42 年になります。
問合せ　松平晃（044-411-6402）
柳沢明信（044-422-5638）

◆劇団民藝公演　真夜中の太陽

日程　7月26日（金）～8月7日（水）（詳細問合せ）
会場　劇団民藝稽古場（小田急多摩線黒川駅）
原案・音楽　谷山浩子／作　工藤千夏／演出　所 奏／出演　中地美佐子・石村みか・橋本潤・小守航平・野田香保里 ほか
料金　一般 5,500 円　仲間の会・川崎市在住割引 5,000 円　30 歳以下 3,300 円　全席指定
癒されることのない戦争の痛みと未来へとつづく希望を幻想的に描く。
問合せ・申込み　劇団民藝
TEL044-987-7711（月～土 10 時～ 18 時）
HP: https://www.gekidanmingei.co.jp/

◆人形劇団ひとみ座公演
にんぎょうげき「メープル農場のどうぶつたち」

日程　8 月 21 日（水）～ 25 日（日）（詳細問合せ）
会場　県民共済みらいホール（JR 桜木町駅徒歩 3 分）（横浜市中区桜木町　県民共済プラザビル 1 階）
脚本・演出　くすのき燕／キャスト　篠崎亜紀・齋藤俊輔・森下勝史・田川陽香・佐藤綾奈・照屋七瀬・金子優子・深澤まりあ弥
料金　一般　大人 2,800 円／子ども 2,200 円
ひとみ座倶楽部会員 大人 2,200 円／子ども 1,800 円　全席指定
メープル農場では動物たちが穏やかに暮らしている。そんな中一つのウワサが流れる。「青い月に願えば、その願いはかなう」。果たして夢見る動物たちの運命は!?
問合せ　ひとみ座　044-777-2222
（受付時間：平日 10 ～ 18 時）

◆劇団銅鑼公演 No.60　星を追う人コメットハンター

日程　8 月 28 日（水）～ 9 月 1 日（日）（詳細問合せ）
会場　シアターグリーン BOX in BOX THEATER（池袋駅東口）
作　関根信一／演出　磯村純／出演　横手寿男・館野元彦・永井沙織・野内貴之 ほか
料金　一般 5,000 円　30 歳以下 3,500 円　全席指定
新天体発見の数が世界一と言われた天文大国日本。そこには彗星を追い求めるアマチュアコメットハンターたちの情熱があった。
問合せ　劇団銅鑼（03-3937-1101）
E-mail: info @ gekidandora.com

◆東京国立博物館　特別展　創建 1200 年記念
「神護寺―空海と真言密教のはじまり」

日程　7月17日（水）～9月8日（日）9:30～17:00
会場　東京国立博物館　平成館特別展示室
料金　一般 2,100 円（一般前売 1,900 円）大学生 1,300 円（大学生前売 1,100 円）高校生 900 円（高校生前売 700 円）
平安初期彫刻の最高傑作である国宝「薬師如来立像」や、約 230 年ぶりの修復を終えた国宝「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」など、空海ゆかりの宝物をはじめ、神護寺に受け継がれる貴重な文化財を紹介します。
問合せ　050-5541-8600（ハローダイヤル）
公式サイト　https://tsumugu.yomiuri.co.jp/jingoji/

◆古市場寄席　夏休み親子寄席

日程　8月4日（日）14:00～15:40
会場　スペース京浜
演目・出演者　恐竜ショー　鈴木礼子・渡邉勉／マジック　佐々木正雄／腹話術　しろたに まもる・ゴローちゃん／二胡演奏　関万里／バナナの叩き売り　川島雅博
特別ゲスト　江戸曲独楽（えどきょくごま）　三増紋（みますもん）
料金（前売）大人 1,500 円　障害者・高校生以下 800 円
問合せ・申込み　京浜協同劇団

●文化の仲間　第 26 回定期総会 を開催します

日程　9 月 29 日（日）　13;30 ～ 14:50　総会
15:00 ～ 16:30　総会記念講演　渡辺賢二さん（明治大学講師）　平和について
16:30 ～ 17:00　質疑応答　～ 17:15　片づけ
17：15 ～　交流会（会費 2,000 円）
会場　総会　スペース京浜（2 階）
交流会　スペース京浜（1 階）
総会、記念講演は参加無料です。記念講演は会員以外の方も参加できます。

■文化の仲間ギャラリー■　大谷　敏行㉒

「厳選」大谷敏行の川柳塾

課題「チーム」
チームプレイ 俺が俺がを封印す

課題「寒い」
民主主義 寒い寒いと震えてる

戦時下の 徴用工という奴隷
包み開け 驚くなかれ札束だ

「箱入り」は 昔娘で今息子
父帰る 帰って見れば空き家かな

スポーツは 筋書きのないドラマ

絵手紙　竹間テル子